

夏と子ども

2005.08.05

子どもたちは待ちに待った夏休み。元気に、海や山に遊びに行っているのかなぁと思います。小児科の外来は夏休み期間中はほんとに空いています。それだけ、子ども同士の接触が風邪を蔓延させる源だということがわかるのですけどね。

夏の子どもたちを悩ませるもの、虫刺され、とびひ、あせもが代表的な3つ。ウイルスの感染症では、先月書いたヘルパンギーナや手足口病などがあります。

今回は代表的な3つのお話です。

虫刺され

子どもは昔から虫には相性がよくてよく刺されるものです。虫に刺されると刺し口を中心に赤く腫れて、かゆみが強く出ます。治療には市販の虫刺されようのお薬でも効きますが、ひどくなってくると、ばい菌を殺す成分や弱いステロイドのような炎症を取る成分の入った軟膏を塗る必要があります。虫刺されはとても痒いので、ほっておくと子どもはかきむしってしまいます。かきむしると治りが悪くなるばかりではなく、ブドウ球菌というばい菌が増えてきてとびひになってしまうことがあります。ですので、かゆみを抑えることを家庭ではしてください。具体的には氷などの冷たいもので虫刺されの部位を冷やしてください。爪が伸びているとかきむしりがよりひどくなるので、爪をよくきって先を丸くしておいてください。

とびひ

ブドウ球菌や溶連菌によって起こる皮膚の感染症です。1ヶ所から始まるのですが、油断しているといろんなところに飛び火するので、このような名前なのでしょう。なってしまったら、抗生物質を飲んだり、抗生物質を含んだ軟膏を塗って治療します。この時期は虫刺されやみずぼうそうからなることが多いです。ジクジグがひどくならないように、石鹸を使ってよく洗うことが必要です。よく洗って消毒して軟膏を塗ると数日でよくなることが多いです。

あせも

小さなお子さんを中心に見られますが、時には大人でもあせもだらうなぁと思うことがあります。汗をかくシーズンには避けられないかもしれません。こまめに下着を替えたり、赤ちゃんだと昼に沐浴することで防ぐことができます。ひどいときには軟膏を塗ったり、ローションを塗ったりします。

夏は子どもにとって最高の季節です。こまめに肌を見て、楽しく過ごさせてください。